

■ 調査概要

1. 趣旨目的

(1) 消費者問題について

本市では、多様化・複雑化する消費者問題に的確・迅速に対応するため、平成 22 年 4 月に「堺市消費生活条例」を施行し、消費生活相談による消費者トラブルへの対応や条例違反事業者に対する指導、被害を未然に防止するための情報提供などを行っています。

今回のアンケートは、市民の皆様がこれまでの生活の中で経験された消費者トラブルの実態や、消費者問題についてのご意見を伺うことで、本市消費者行政の課題を明らかにし、今後の施策に反映させるなど、より効果的な取り組みの基礎資料とするために実施するものです。

なお、設問については過去と同様のものがありますが、経年変化を確認しておりますのでご了承願います。

(2) 自転車利用環境（「利用促進」「安全利用」「通行環境」「駐輪環境」）について

本市では、平成 26 年 10 月に「堺市自転車のまちづくり推進条例」を施行し、また、令和元年 8 月には、「堺市自転車利用環境計画（追補版）-重点アクションプラン-」を策定し、自転車を安全に安心、そして楽しく利用できる環境づくりを進めています。

また、「堺市自転車ネットワーク整備アクションプラン 50km」に基づき、自転車通行環境整備に取り組み、さらに駅前を中心に放置自転車対策や駐輪場の利用環境の向上にも努めています。

今回のアンケートでは、自転車に関わる施策のうち、現在重点的に取り組んでいる「利用促進」「安全利用」「通行環境」「駐輪環境」のそれぞれ施策について、効果検証をするとともに、今後における施策展開の参考とするために実施するものです。

なお、設問については過去と同様のものがありますが、経年変化を確認しておりますのでご了承願います。

(3) 堺市博物館の今後のあり方について

令和元年 7 月 6 日に「百舌鳥・古市古墳群」が大阪府内で初となる世界遺産に登録されました。本市では、古墳の価値や魅力について、市民の皆様により分かりやすくお伝えしていくため、本年 3 月 13 日に「百舌鳥古墳群ビジターセンター」をオープンするとともに、堺市博物館のリニューアルを行い、古墳などに関する古代展示を充実したところです。

堺市博物館では、市内の古墳・遺跡からの発掘資料や古文書、美術資料などを多数展示し、古代から近代に至る堺の歴史・文化について紹介しており、古墳群の世界遺産登録を機に、更に堺の歴史文化の魅力を発信していく必要があると考えています。しかしながら、堺市博物館は、昭和 55 年の開設から 40 年以上が経過して施設・設備の老朽化が進むとともに、収蔵資料の増加に伴い収蔵庫が手狭になるなどの課題が生じています。

こうした状況の中で、市民の皆様のご意見を参考に、今後の堺市博物館のあり方や、果たしていくべき役割などについて検討を進めたいと考えています。

(4) 自治会について

これまで、本市では、住民自治を進め、安全・安心な地域コミュニティを推進するため、主要な協働パートナーである自治会と連携・協働しながら、取組を進めてきました。

近年、生活スタイルや価値観の多様化などから地域でのつながりが希薄化し、地域コミュニティの弱体化が懸念されています。

皆様の自治会活動への関与状況などをお聞きして、今後の自治会支援施策等を検討する参考とさせていただくものです。

2. 調査期間

令和3年8月20日（金）～令和3年9月2日（木）

3. テーマ担当課

(1) 消費者問題について

市民人権局 市民生活部 消費生活センター

(2) 自転車利用環境（「利用促進」「安全利用」「通行環境」「駐輪環境」）について

建設局 サイクルシティ推進部 自転車企画推進課、自転車環境整備課、自転車対策事務所

(3) 堺市博物館の今後のあり方について

文化観光局 博物館 学芸課

(4) 自治会について

市民人権局 市民生活部 市民協働課

4. 調査方法

(1) 対象

市内在住・在勤・在学の18歳以上の方で、公募による市政モニター

(2) 人数

494人

(3) 調査方法

インターネットを通じたアンケート回答

(4) 回収率

調査対象者494人に対して、有効回収数482人 回収率97.6%となった。

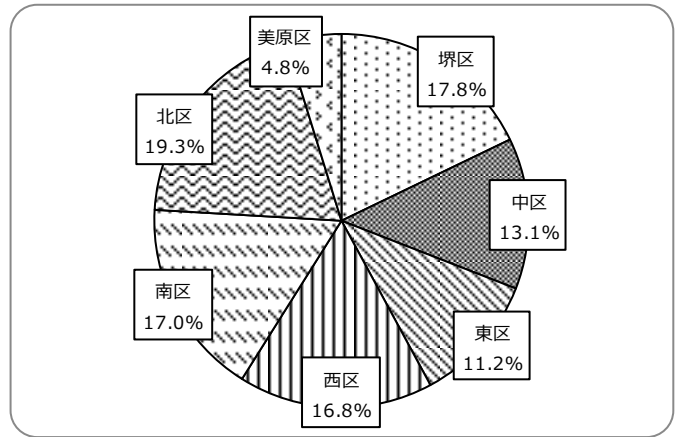
5. 報告書の見方

- (1) 本調査の集計分析対象とした調査票総数は482である。数表中のNは比例算出の基礎となる回答者総数を表している。
- (2) 個々の選択肢比率を合算する場合は、個々の回答数の合計をNで除して百分率を求め、小数点第2位を四捨五入した。このため、個々の比率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を超える。
- (4) 「その他記述」および「自由回答」に関しては、紙面の都合上、主な内容を集約、抜粋して掲載した。

■ 回答者属性

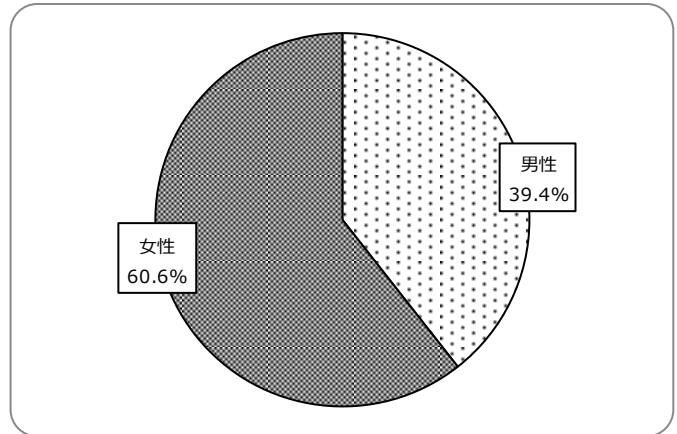
居住区別		回答数	構成比
1	堺区	86	17.8%
2	中区	63	13.1%
3	東区	54	11.2%
4	西区	81	16.8%
5	南区	82	17.0%
6	北区	93	19.3%
7	美原区	23	4.8%
計		482	100.0%

居住区別



性別		回答数	構成比
1	男性	190	39.4%
2	女性	292	60.6%
計		482	100.0%

性別



年齢層別		回答数	構成比
1	18歳以上30歳未満	61	12.7%
2	30歳代	71	14.7%
3	40歳代	103	21.4%
4	50歳代	103	21.4%
5	60歳代	70	14.5%
6	70歳以上	74	15.4%
計		482	100.0%

年齢層別

